

# 淡路

## 今できること 淡路JCCの思い

現在、社会の変化とともに国や地方自治体が抱える諸問題が露呈してきました。この淡路島も人口減少、少子高齢化、島内雇用減少など、さまざまな問題の対応を迫られております。

そんな中、PHP総合研究所前社長の江口克彦氏にわれわれの例会で講演していただきました。東京・霞が関の官僚によって淡路島の事を知らない、わかっている、来たこともないまま全国画一の法律により淡路島の事が決められていること、地域主権とは自治体が主体となって地域の特徴を取り入れ自由で独創的な活動ができ、住民が納得して無駄のない行政が行われる国の形であるということなど、今後の淡路島の発展の可能性について大変参考になるお話を聞かせてもらいました。不具合が生じている日本の中央集権の限界を知り、地方分権、そしてその先にある地域の枠組みとして道州制、または自主性・主体性・責任のある地域づくりの象徴である地域主権を理解する必要性を痛感しました。

### 淡路青年会議所 長尾泰宏監事(37)



「地域に住む市民一人ひとりがかかわる市民主導のまちづくりが大切」と長尾監事

## 誇りと自信、責任持って行動を

淡路島はこのままいけば20年後には人口が10万人を切る予測され、限界集落になってしまいます。しかし、不安定な生活を続けているにもかかわらず、「今の状況を打破していかなければならぬ」という意識が薄く、「まだ大丈夫」と思い行動できていないのが現状ではないでしょうか。今までの

淡路島だけの視野だけでなく日本全国へい、知らなかったとはいえませんが淡路島の存在意義を示しているように、淡路島に対して「誇り」と「自信」と「責任」を持って行動をしてい、淡路島かなければなりません。

このアイデンティティーを生かして淡路島は、独自の風景や文化、歴史、気候など素晴らしい魅力があるので、素晴らしい魅力があるのですから、

社会法人淡路青年会議所は1963年の創設以来、今日まで多くの先輩方より受け継いできたJCC運動の意義や

目的、思いや情熱といったものを絶やすことなく次の時代へ引き継いできました。しかし、その思いや目的を具現化する手法や手段は時代によって変えていき、近年では市民参加型社会への変革をテーマに活動しています。それにはまず市民のまちづくりに対する意識高揚が必要です。淡路島のことば淡路島に住んでいる人々が地域と向き合っ、淡路島づくりを考えることにより元氣な地域へと変革するものがあると思ひます。自立した市民による淡路島づくりが淡路青年会議所の目指す「明るい豊かな淡路島づくり」の実現に向けての大きな一歩となり、またJCCメンバー自身が淡路島のビジョンを描き、責任を持った行動をとることが必要であることを認識し、これからの活動してまいりたいと思ひます。

- .....
- ニュースのご連絡は
- 洲本支局**
- T656-0026
- 洲本市栄町2-2-15
- (本岡ビル2階)
- 0799(22)1450
- FAX 0799(25)2125
- 姫路支局**
- T670-0921
- 姫路市総町119
- 姫路不動ビル内
- 079(224)5551
- FAX 079(226)3191
- 駐在
- 加古川 079(421)7520
- 豊岡支局**
- T668-0025
- 豊岡市幸町13-20
- 0796(22)6151
- FAX 0796(29)2338
- 通信部
- 香住 0796(36)4499
- 神戸総局**
- T650-0015
- 神戸市中央区
- 多崎通4-1-5
- 078(351)1771
- FAX 078(361)3001
- 阪神支局**
- T662-0918
- 西宮市六湛寺町9-11
- 0798(33)5881
- FAX 0798(37)2477
- 通信部
- 尼崎 06(6421)2545
- .....